

[担当教員]

楢橋修（准教授）高麗憲志（技術職員）

[Teaching Assistant]

西村卓馬（A64）、三井貴裕（A64）、山岡義大（A64）

建築をデザインする上で必要となる基礎的な造形力を獲得することを目的とし、立体造形制作を通じて、構成力や造形力を習得するとともに、形態や色彩感覚、素材の質感、スケール感覚、平面と立体との関係などの空間造形感覚をそれらを表現する能力を養う。

実習は3グループに分かれて行い、各回テーマを持って実習に取り組む。中間講評を挟んで大きく2つの課題制作を行い、スタディーからプレゼンテーションまでのスキルを身につける。



■課題概要

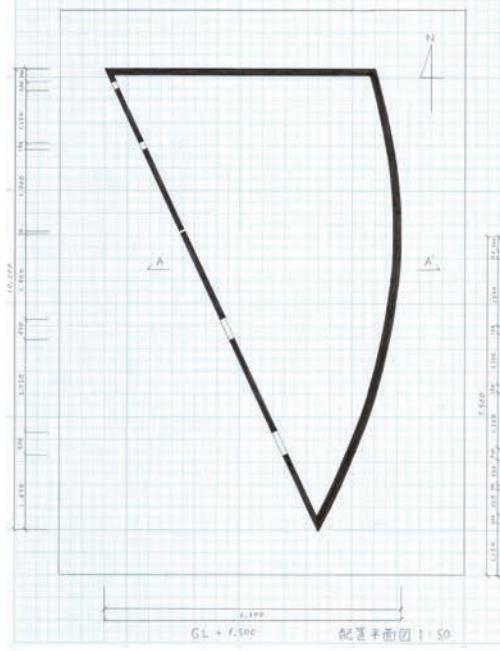
設計の基礎を学ぶ初学者に分かりやすいように講義と実習を適宜取り混ぜながら行う。課題は中間講評を挟んで前半(実習7コマ)と後半(実習5コマ)から構成する。前半では段階を踏んで模型製作とスタディーのプロセスを学び、後半では前半のスタディーを踏まえ、より自由な建築表現の方法を学ぶ。

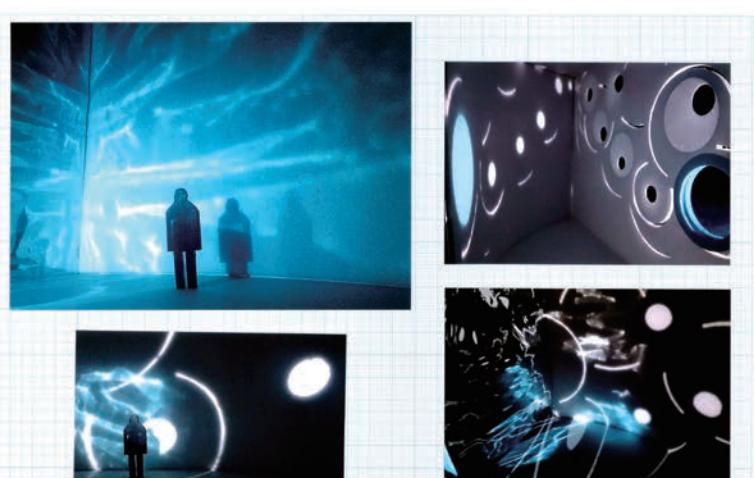
| パート1 (3限) | パート2 (4限) |
|-------------------|-----------------|
| 1-1 ガイダンス | 1-2 座席指定、道具の使い方 |
| 2-1 箱を作る | 2-2 穴を開ける |
| 3-1 スケールと配置を考える | 3-2 光の空間を考える |
| 4-1 空間を表す1 (プレゼン) | 4-2 提出1 (A2サイズ) |
| 5-1 中間講評と後半課題説明 | 5-2 再び箱を作る |
| 6-1 光の効果と空間体験 | 6-2 マテリアルを考える |
| 7-1 空間を表す2 (プレゼン) | 7-2 提出2 (A2サイズ) |
| 8-1 講評会 | |

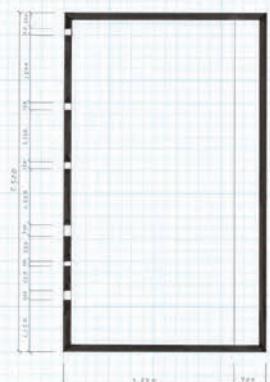
初山美帆「空間を表す2」

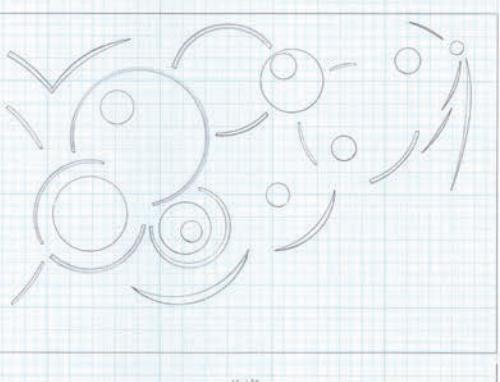
水影

コンセプト
光が水面に反射して映し出され、さらさらと揺らめく美しい水の影。そんな水影に包まれ、純粋に楽しめる空間を目指した。









初山美帆
西側立面図 1:50
初山美帆

建築原論 / 初年次セミナー

特別演習『タワーを創ろう。自分だけの。可能な限り高く。』

開講年次：学部1回生 前期

[担当教員]

大谷弘明（神戸大学客員教授／日建設計執行役員）

遠藤秀平（教授）

[準備補助]

浅井保（助教） 山口秀文（助教） 高麗憲志（技術職員）



日本の高校の教育では、造形や空間を考えるような授業も場所もなかったはず。いまや、建築学科に公式に入学された皆さんには、だれも想像したことのない空間や建築に向き合うことを公式に「許されている」。

ところで「建築」のかたちは頭の中の思考から出てくるものとは限らない。多くの場合、手を動かし続けて、その形にならない状態を積み重ねる中から生まれてくる。一個の建築を創ることに無限の可能性が秘められていること、を皆さんにはいずれ知るだろう。

この課題、白いケント紙を使うだけで、どれだけの高いものを創れるかをやってもらった。周りの人と比べて見て、実にバラエティ豊かなものができたと思う。ただし誰も重力（1G）にはかなわない。地球上にある建物（模型）である限り、あまねく同じ条件が降りかかっている。高く建てられなかつた人はこの1Gの扱いに困ったのだ。この授業体験をもとに、今後機会あるごとに自ら模型を製作してみてほしい。そしてその作った模型からさまざまなことを自ら発見してほしい。

おそらく小さい頃から、皆さんはものづくりが得意だったはず。無心の子供の絵がうまい！と思えてしまうと同様、皆さんが今回試した立体構成に、それぞれの「建築」の萌芽が発見できた。この原初体験を通じて、自分が秘めている可能性を再発見してほしい。（大谷弘明）



講義風景



■ 演習課題

みなさんが神戸大学工学部建築学科に入学されたこと、まことに喜ばしく思います。これからは、いよいよ建築の専門教育を学ぶことができます。

みなさんは日頃、建物をどんなふうに見ていますか。建築とは見るだけのものではなく、空間の「体験」です。みなさんの前には驚くべき未知の建築空間体験が待ちかまえているはずです。

きょうはみなさんと、建築をつくるとはどういうことなのか、一緒に考えたいと思います。考えると言っても頭で考えるではありません。手を使って頭を動かしながら考えましょう。建築とはこれらの思考の結果です。建築とはオブジェではありません。人間を取り巻くすべてが建築といつても過言できません。

『タワーを創ろう。自分だけの。可能な限り高く。』

頭の中にあるいろんなタワーイメージをもとに実際の立体造形にしてみましょう。「より高くより美しく」、これは常に人間世界に伴う建築テーマの一つです。

考えながら形にし、実際に組み上げて、出来上がりをまわりと比べ、感じて、批評しあう、これらのプロセスが大切です。これらの活動すべてが建築的な「体験」の事始めになります。もしくは「原体験」となります。

オリジナリティあふれる独創的な自分だけの形をつくってみましょう。

・日 時 5月13日（金）1、2限（8:50～12:10）

・場 所 鶴甲第一キャンパスK棟K401

・時間配分 事前の説明 8:50～9:00

製作時間 9:00～11:30

講評 11:30～12:10

・材料

目の前に用意されているケント紙、定規、はさみ、テープ、ホッチキスをつかいます。

*製作のスケールは自由です。人型の切り抜きをひとつつくり、自分のつくった造形の中に配置しましょう。



作品制作風景